

今そして未来

県環境アドバイザーからの提言

▶▶ 20

今日も赤芽垣の間からポインターがやって来る。飼い主の小児科の先生は、「待て」と合図をする。ポインターは、おすわりをして私が通り過ぎるのを待たせてくれている。「おはようございます」。あいさつが終わると、先生は「よし」と小さな声で言う。ポインターは、先生の顔を見上げ、うれしそうに尾を振りながら歩き出す。大きな先生の右手には、小さなバケツ。次にやって来たのは、元気な男の子二人と犬二匹。「待ってよー」。道いっぱいに犬に引っ張られながら、右に行ったり、左に寄ったり。その度に犬は、

飼い主責任で持ち帰ろう



犬のふん害を考える

【いづち・けんじ】

あちこちにおしっこをかけている。「まあ、大変なこと」。でも男の子たちは、犬の鎖を両手で握っているのが精いっぱい。「ワンチしたら、どうするのかしら」



いつもの畑道。男の人が立っている。「おはようございます」。おはよう。声をかけて歩きないな。犬のふんがそこらの中にあるからよ。キャベツの上にも

藤岡市藤岡。県環境アドバイザー書記、県生活学校運動推進協議会会長、藤岡市環境審議会委員、同市生活学校連絡協議会会長。

「犬のふんは持ち帰りましょう」環境課の看板の下にもある。少し先の小学校の塀にそっぴもポツポツと並んでいる。人飼いな、始末していただけないだろうか。これでわがままお願いでしょうか……。

犬のふんには、皆、困っている。ペットたちの幸せって何かしら。人間って勝手。せめて、ペットシヨップで売っているバケツとシャベルくらいは持参し、始末していただけないだろうか。これでわがままお願いでしょうか……。

井口 邦子

広